

# 冊 サンプルズだより

## 第2回市民のつどいを 開催しました

No.54 2010.3.29  
発行：社会福祉法人 サンプルズ  
編集：法人本部 事務局  
〒167-0023  
杉並区上井草3-33-10  
03-3394-9833



去る1月31日、「自分らしく生きよう この杉並で」と題し、サンプルズ上井草で2回目となる市民のつどいを開催しました。今回は、ご利用者・ご家族の立場を中心に、介護保険制度がスタートしてからの10年を検証しました。100名を超える地域の皆様が参加され、自分らしく生きていくための杉並の福祉とは何かを一緒に考えました。

開会に先立ち、オープニングコンサートとして井荻小学校・いおぎ伝統文化子ども教室の皆様による琴の演奏がありました。生徒と保護者の奏でる琴の音色が来場者を迎え、「桜」や「お江戸日本橋」などを琴の調べにのせてみんなで歌いました。開会前から会場がひとつに包まれたようでした。



<風雅なオープニングコンサート>

開会に際し、実行委員長の石毛栄一から、介護保険が始まってからの10年間をご利用者・ご家族、地域の皆様と共に活発に議論したいと挨拶がありました。

また、サンプルズ後援会の青木利元会長から、この10年間サンプルズが地域を基点にどのような活動を行ってきたかを振り返ると共に、後援会として、地域とサンプルズをより身近に結びつけるための手助けをしていきたいとの挨拶がありました。

### 第1部 基調講演

「検証 介護保険 10年」と題して、理事長の大友信勝が講演を行いました。現在の介護保険制度は暮らしを支援する社会福祉的部分を切り捨て、福祉から医療の制度へと変質を図っていると指摘しました。また、サンプルズは「住み慣れたこの杉並で暮らしたい」という思いを背負って、地域や行政などの様々な人達の支援で成り立っている。だからこそ、地域ボランティアをコーディネートするなどして、暮らしのどんなニーズにも応えられる法人でありたい。これからは「恩送りの事業」、すなわち地域の皆様の暮らしを支え、共に理解し合い、活かし合える事業を一生懸命考えていきたいと述べました。



<理事長大友信勝の基調講演>

### 第2部 報告

「在宅介護の問題点」と題し、家族介護者からの問題提起を行いました。利用者家族の大場文子さんは、介護保険施行以前は家政婦派遣制度や障害者福祉制度を利用していたが、自治体によってサービスの充実度に差があったと話されました。また、現在の在宅重視の介護保険制度は家族の介護負担を増やし、介護施設の運営をも厳しくしていると問題提起をされました。さらに、事前の予約なしに夜間のみ宿泊できるなど、制度の隙間を

埋めるサービスが欲しいと訴えられました。

利用者家族の吉田寛子さんは、家族介護者の心身に様々な負担がかかる現状を話されました。また、要介護認定で「悪くなったら申請して下さい」と言われたことから、現在の介護保険制度は「介護予防」ではなく「介護される人」を増やしているのではないかと問題提起をされました。在宅介護では他人の手を借りる事が大切であること、医療・介護の職員が充実すれば、心のゆとりが生まれサービスの質が向上すると訴えられました。



<利用者家族の立場からの貴重な声>

### 第3部パネルディスカッション

市民・事業者・学識経験者・行政の立場から、「在宅介護の現状と課題」についてパネルディスカッションを行いました。

市民の立場として、井荻地区民生児童委員の馬場容子さんは、災害支援マップなどを活用して高齢者世帯や単身者が地域から孤立してしまわないよう、報告、発見、協力のプランを立てることが大切だと話されました。

事業者の立場として、サンフレンズ友愛介護センター所長の亀村実千代は、ヘルパーの役割について、ご利用者のプライベートな空間に入るため、ケアマネジャーなどが見えないところも見る事ができると述べました。

学識経験者の立場として、東京ボランティア・市民生活センターアドバイザーの安藤雄太さんは、現在の介護保険制度は、介護する側のことを考えていないと指摘しました。今後は、いかに家族ごと地域で支えられるかが問題だと話されました。

行政の立場として、杉並区保健福祉部介護予防課長の畦元智恵子さんは、心の相談も含めた介護者同士の会を設けるなど介護者の支援事業を行っており、一人ひとりの要望に応えられるような事業を、地域住民と一緒に考えたいと話されました。

最後にコーディネーターの白梅学園短期大学准教授の森山千賀子さんは、自分らしく生きるための福祉をどう実践していくかという様々なヒントを今後につないでいきたいと締めくくりました。



<パネルディスカッションの光景>

パネルディスカッションの後は、和泉ふれあいの家と上井草ふれあいの家のご利用者からなる、和泉大正乙女楽団と上井草ハーモニックバンドのジョイントコンサートが行われました。会場は盛り上がり、アンコールには「リンゴの唄」を全員で合唱しました。



<大正琴とハーモニカのコラボレーション>

最後に、新しいホームを作る会の会長で、市民のつどい副実行委員長の田寺儉治さんが、来年の開催を地域の皆様に約束し閉会しました。

# 友愛の灯協会に感謝をこめて・・・

設立以来 32 年、地域福祉に貢献してきた「友愛の灯協会」が、3 月末日をもち解散することが決定しました。解散にあたり志磨会長のメッセージをご紹介します。

社団法人 友愛の灯協会の解散にあたって  
友愛の灯協会会長 志磨 陽子

1972 年、一人の主婦の痛切な介護体験を通して、その思いに共感した人々が立ち上がり「杉並・老後を良くする会」が発足、その活動の上に更に医療と福祉の結合を目指した市民運動体として 1978 年 1 月「社団法人友愛の灯協会」は設立しました。

「心ある人々の結集を財産とし、地道な地域事業活動を通して、やがては究極の目標に達すべく皆様と共に決意を新たにす」曾田長宗初代会長の設立の言葉を改めてかみしめております。仲間たちと共に精一杯考え、学び行動してきました。苦しいことも多かった中で“何かを達成することへの喜びであり、それは主婦の小さな力の積み重ねが徐々に世直しに向かって行くことへの希望

であったのかもしれませんが。

福祉の在り方がめまぐるしく変わる中、反省を繰り返し、また、事業運営が行き詰ったとき、新しい事業をとり入れるか否か、相談に応え、明快に道筋を示してくださった一番ヶ瀬康子先生、今は亡き中川晶輝会長のおかげで舵取りを誤らずに歩んでこられたことを忘れてはならないと思っています。皆様のご協力があったからこそ乗り切ることができたと心から感謝しております。

今日まで地域を支え、地域を拓いてきた先駆的、開拓的な役割は終わったと自覚し、会を閉じることにしました。幸いにも協会の理念を引継いだ特定非営利活動法人 NPO 友愛ヘルプおよび特定非営利活動法人 NPO 友愛サポートセンターに後を託すことにいたしました。若い力で新しい地域福祉文化の花を咲かせてくださることを期待いたします。

前途多難な時期の船出となりますが、何卒温かく見守りつづけてくださるようお願い申し上げます。最後に、サンフレンズのますますのご発展とご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

## 2010年度 事業計画・予算決定

社会福祉法人サンフレンズの 2010 年度事業計画案と予算案は、3 月 28 日に開催された評議員会を経て理事会で決定しました。

ここでは、事業計画から法人全体で取り組む重点目標を抜粋して掲載いたします。また、予算の総括をお知らせいたします。

### 事業計画

#### 法人全体で取り組む重点目標

介護保険制度施行から 10 年。介護の社会化が果たして実現されたのか、介護の問題が年ごとに深刻化し、制度自体の抜本的見直しが必要になってきています。

また民主党への政権交代があった 2009 年、社会

保障の政策が国民を守るものになっていくのか、介護従事者の処遇が継続的に改善されていくのか、兆しは見えるものの未だ暗雲の中です。

低所得層、単身世帯の高齢者の介護問題、利用者家族の高齢化や地域との関係の希薄さから家族そのものへの支援が増えていること、特別養護老人ホームでは、職員配置基準が保障されないまま、利用者の重度化への対応と「看取り」が求められていること等、介護保険制度以降、施設・事業所は制度上、運営上の矛盾を生じてきています。そのニーズと問題上に、「公益性」と「地域の社会福祉の増進に寄与することを目的とする」社会福祉法人の役割や存在意義が問われています。

国の政策の方向性が流動的な中、2009 年度はサンフレンズが常に“地域と共に”の原点にたち、

地域の高齢者が安心して暮らし続けることができるような新しい施策の提言や、新事業への取組みに向けての土台づくりの年としました。そのために経営面の安定を図ることと人材育成に力を注ぎました。

2010 年度も引き続き経営面の安定と人材育成に重点を置きます。開設以来 4 年目になる特別養護老人ホームサンフレンズ善福寺の経営を建て直します。

法人全体の安定経営を基に、継続的に良質な福祉サービスを提供し、新たな福祉ニーズに応えていく事業展開をより着実に計画的に推進するため、法人の新たな体制づくりをします。具体的には予算と一体となった事業計画作成と人材育成計画を作成する委員会を立ち上げます。

新たな事業展開としては、2009 年度に検討を重ねてきた居宅介護支援事業所がより専門性を高めるため、統合の一步を踏み出します。訪問介護事業は友愛の灯協会の発展的解散も踏まえ、サンフレンズ独自の今後のあり方を定めていきます。

またケア 24 上井草（地域包括支援センター）が地域のニーズを基に、地域の孤立した高齢者向けへの事業の検討を開始します。

新たな委員会や事業検討には管理職員のみならず、評議員、理事も構成メンバーとし、地域の住民を巻き込み、サンフレンズらしい活発な論議の場と実践への道筋を着実に築いていきます。

## 1.経営の安定化

2009 年度は各事業所の業績管理を行ってきました。その結果、2009 年からの介護報酬の改正と各事業所の努力があり、課題とすべきは小規模の新型特養であるサンフレンズ善福寺の経営です。

### （1）特別養護老人ホームサンフレンズ善福寺の経営の建て直し

適切な人員配置に基づいた人件費率と利用率の実績を運営会議にて逐次管理し、適時の対応と対策を講じます。

### （2）予算・経営委員会の設置

これまで本部事務局が予算編成していましたが

新たに予算・経営委員会を設置し、適切な財政収支の見通しを立て、来年度の予算の骨子を作成します。

### （3）事業計画委員会の設置

従来 of 事業計画作成方法と内容を見直します。予算と一体となった次年度の事業計画の骨子を打ち出します。サンフレンズがどこに向かおうとしているのか、単年度は何を目標としていくのか、職員にも利用者、家族、地域の方にもわかりやすいビジョンを打ち出します。

## 2.人材育成

現在法人全体の研修計画はありますが、人材育成に関する方針や目標、その育成方法も包括する体系だった育成計画がありません。

人材確保も困難を極めています。専門学校との関係性を深め、障害をもつ方や地域の団塊世代の方等の多様な役割や働きをも組み込む必要があります。2009 年度の介護報酬改定と介護職員処遇改善交付金はキャリアパスが要件とされています。人材の育成と確保の人材マネジメントに取り組んでいきます。

### （1）人材育成（研修）計画の作成

個々の職員のライフステージに添い、専門性を高めキャリアアップしていく人材育成にあたっては、多様な事業運営をしているサンフレンズの特色を生かした育成計画、次世代リーダー育成、各職種の体系だった研修、専門教育機関とのタイアップ、地域住民との勉強会等を組み込んだ総合的人材育成計画を作成します。

## 3.地域との協働

### （1）地域への「恩送り」事業

地域の孤立した高齢者向けに、「恩送り」の理念に沿った、サンフレンズ新規事業、「困ったときの S・O・S」（仮称）を立ち上げます。この事業はちょっとした困りごとに、区民同士のネットワークを利用して課題を解決する事業です。2010 年度は、事業開始までのスケジュールや事業内容などを、地域の方と検討会を立ち上げて決定します。

# 2010年度 予算

(単位:千円)

大区 分科 目	中区分科目	2010年度予算	2009年度予算	差異	備考
経常活動による収支					
経常活動による収入					
	介護福祉施設介護料収入	367,102	358,735	8,367	
	介護報酬収入(施設)	330,391	323,548	6,843	
	利用者負担金収入(施設)	36,711	35,187	1,524	
	居室介護料収入	695,356	704,837	-9,481	
	(介護報酬収入)	625,821	633,906	-8,085	
	介護報酬収入(居室)	573,422	579,314	-5,892	和泉大規模Ⅰ型へ、永福大規模Ⅱ型へ
	介護予防報酬収入(居室)	52,399	54,592	-2,193	和泉大規模Ⅰ型へ、永福大規模Ⅱ型へ
	(利用者負担金収入)	69,535	70,931	-1,396	
	介護負担金収入(居室)	63,714	64,807	-1,093	和泉大規模Ⅰ型へ、永福大規模Ⅱ型へ
	介護予防負担金収入(居室)	5,821	6,124	-303	和泉大規模Ⅰ型へ、永福大規模Ⅱ型へ
	居室介護支援介護料収入	91,832	74,978	16,854	
	居室介護支援介護料収入	78,824	61,970	16,854	上井草体制変更、和田松ノ木友愛支援統合
	介護予防支援介護料収入	13,008	13,008	0	
	利用者等利用料収入	180,250	178,840	1,410	
	介護福祉施設利用料収入	10,929	11,043	-114	
	居室介護サービス利用料収入	17,244	16,604	640	
	食費収入	108,672	107,233	1,439	
	居住費収入	33,200	33,149	51	
	管理費収入	0	0	0	
	その他の利用料収入	10,205	10,811	-606	
	その他の事業収入	203,132	159,026	44,106	
	補助金収入	34,141	17,685	16,456	処遇改善交付金24,961
	受託収入	168,991	141,341	27,650	雇用プログラム8,136外出支援7,740配食94,249
	寄付金収入	600	2,576	-1,976	
	借入利息補助金収入	2,448	2,592	-144	高齢者福祉財団利子補給・善福寺
	受取利息配当金収入	1,031	1,123	-92	
	事業外収入	8,229	8,234	-5	
	受入研修費収入	2,410	2,415	-5	
	職員等給食費収入	5,819	5,819	0	
	雑収入	0	1,024	-1,024	
	経常活動による収入計(1)	1,549,980	1,491,965	58,015	
経常活動による支出					
	人件費支出	1,025,548	952,328	73,220	
	役員報酬	658	447	211	
	職員俸給	380,019	359,279	20,740	常勤職員数124→126
	職員諸手当	184,695	173,649	11,046	処遇改善分4,755
	非常勤職員給与	348,924	327,732	21,192	職員数320→331、雇用プログラム分5,633
	退職金	0	0	0	
	退職共済掛金	10,324	10,738	-414	
	法定福利費	100,928	80,483	20,445	処遇改善437雇用プログラム807
	経費支出	452,398	483,264	-30,866	
	(直接介護支出)	213,590	205,854	7,736	
	給食材料費	109,978	104,114	5,864	
	介護用品費	18,932	18,932	0	
	教養娯楽費	5,100	5,100	0	
	医薬品費	6,695	6,695	0	
	日用品費	203	203	0	
	被服費	3,661	3,661	0	
	消耗器具備品費	11,253	9,638	1,615	
	保健衛生費	3,998	3,998	0	
	車両費	6,756	6,721	35	
	光熱水費	46,036	45,884	152	
	協力員活動費	978	908	70	
	(一般管理支出)	238,808	277,410	-38,602	

	福利厚生費	3,240	3,223	17	
	旅費交通費	1,473	1,244	229	
	研修費	1,027	745	282	介護雇用プログラム分283
	通信運搬費	7,293	7,562	-269	
	事務消耗品費	9,462	9,324	138	
	印刷製本費	2,469	2,557	-88	
	広報費	346	346	0	
	会議費	65	57	8	
	修繕費	6,583	6,213	370	
	保守料	7,500	8,187	-687	
	賃借料	19,204	17,963	1,241	家賃友愛3,000→訪問2,460新高円寺1,746本部360
	保険料	4,465	4,325	140	
	渉外費	178	162	16	
	諸会費	974	965	9	
	租税公課	1,308	1,308	0	
	委託費	169,493	208,462	-38,969	人材派遣-24,540・各種契約見直し-14,153
	雑費	3,728	4,767	-1,039	
	利用者負担軽減額	796	796	0	
	徴収不能額	0	0	0	
	借入金利息支出	8,688	8,591	97	
	事業外支出	4,540	4,540	0	
	職員等給食費	4,540	4,540	0	
	その他の事業外支出	0	0	0	
	雑支出	0	0	0	
	経常活動による支出計(2)	1,491,970	1,449,519	42,451	
	経常活動資金収支差額((3)=(1)-(2))	58,010	42,446	15,564	
	施設整備等による収支				
	施設整備等による収入				
	設備資金借入金収入	0	0	0	
	施設整備等補助金収入	0	0	0	
	施設整備等寄付金収入	0	0	0	
	固定資産売却収入	0	0	0	
	器具及び備品売却収入	0	0	0	
	車両運搬具売却収入	0	0	0	
	その他の固定資産売却収入	0	0	0	
	施設整備等による収入計(4)	0	0	0	
	施設整備等による支出				
	固定資産取得支出	12,653	11,634	1,019	
	土地取得支出	0	0	0	
	建物取得支出	150	2,000	-1,850	
	器具及び備品取得支出	12,403	7,245	5,158	
	車両運搬具取得支出	100	1,219	-1,119	
	その他の固定資産取得支出	0	1,170	-1,170	
	固定資産除却・廃棄支出	0	0	0	
	施設整備等による支出計(5)	12,653	11,634	1,019	
	施設整備等資金収支差額((6)=(4)-(5))	-12,653	-11,634	-1,019	
	財務活動による収支				
	財務活動による収入				
	長期運営資金借入金収入	0	0	0	
	投資有価証券売却収入	0	0	0	
	設備資金借入金元金償還補助金収入	3,578	3,578	0	区元金補助・善福寺
	設備資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0	
	長期運営資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0	
	積立預金取崩収入	0	0	0	
	移行時特別積立預金取崩収入	0	0	0	
	その他の積立預金取崩収入	0	0	0	
	他会計区分繰入金収入	0	0	0	
	会計区分外繰入金収入	0	0	0	
	その他の収入	0	3,336	-3,336	
	財務活動による収入計(7)	3,578	6,914	-3,336	
	財務活動による支出				
	設備資金借入金元金償還金支出	23,710	23,710	0	医療機構13,150・西武信金10,560
	長期運営資金借入金元金償還金支出	0	0	0	
	投資有価証券取得支出	0	0	0	
	積立預金支出	0	0	0	
	他会計区分繰入金支出	0	0	0	
	会計区分外繰入金支出	0	0	0	
	その他の支出	0	6,547	-6,547	
	財務活動による支出計(8)	23,710	30,257	-6,547	
	財務活動資金収支差額((9)=(7)-(8))	-20,132	-23,343	3,211	
	予備費(10)	2,704	2,704	0	
	当期資金収支差額合計((11)=(3)+(6)+(9)-(10))	22,521	4,765	17,756	
	前期末支払資金残高(12)	608,503	603,738	4,765	
	当期末支払資金残高(13=(11)+(12))	631,024	608,503	22,521	

# 地域活動の紹介 第7回

地域包括支援センターケア 24 善福寺では、地域の皆さんや関係機関との連携強化を目的として、交流の場を設けたり、地域の行事に積極的に参加しています。

## 共食サロン

高齢者が、共に食事をする事で、食事の楽しさを再確認していただきたい。また、高齢者の外出の機会となり、ご近所付き合いのきっかけになるようにと、食事会（共食サロン）を開催しました。会場は、特別養護老人ホーム・サンフレンズ善福寺です。参加者は白寿会（60 歳以上の杉並区民の自主団体である「いきいきクラブ」のひとつ）の皆さんでした。

最初に区役所の栄養士から、バランスの良い食事の話や、簡単に作れて栄養のある料理の紹介など食に関する講義を受けました。講義のあとは、お楽しみの食事会です。サンフレンズ善福寺自慢のクックチル方式で作った昼食に舌鼓をうちました。「味がしみ込んでるねえ〜！」「お家でも作れるかしら？」と会話も弾み、あっという間に時間が過ぎました。

明るい雰囲気です、地域の皆さんとの交流が深められました。



＜美味しい食事で話に花が咲きます＞

## ハロー西荻まつり

「ハロー西荻」まつりは、1976 年（昭和 51 年）に始められた「西荻まつり」が、1993 年からは「ハロー西荻」と名を変えて現在まで続いているお祭りです。地震や災害などにそなえて、ふだんから

お互い協力しあえる地域にしたいという思いで、地域内の商店会が協力して行われています。

ケア 24 善福寺の職員も、スタンプラリーやお神輿の練り歩きに参加し、商店会と顔の見える関係を作ってきました。



＜お神輿は祭りで一番の盛り上がりです＞

## 桃三小学校の防災訓練

杉並区立桃井第三小学校の防災訓練では、消防署、杉並区、商店会、民生委員や桃井第三小学校 PTA 役員を中心に避難訓練を行いました。

これは、杉並区が行っている「地域のたすけあいネットワーク（地域の手）」というサービスに登録されている、災害時に援護が必要な高齢者を対象にした模擬避難です。対象者の自宅から避難場所の桃井第三小学校までの経路をたどりました。震災があった場合にそなえ、滞りなく避難するための細かな確認をしました。

これらの活動を通して、商店会との連携も深まり、商店会会員対象に「認知症サポーター養成講座」も実施することができました。高齢者に優しい商店会、認知症になっても安心して暮らせる地域作りの第一歩を踏み出せたと思っています。

今後、首都圏の高齢化が急速に進んでいく中、介護保険のサービスを基本としながらも、それだけでは高齢社会を支え切れない時代になります。

地域包括支援センターケア 24 善福寺は、地域の皆さんがお互いに助け合え、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができる「いい街」づくりのお手伝いをしていきます。

## 法人への寄付金および物品等を賜り、厚く御礼を申し上げます。

2010年1月1日から2月28日までにご寄付をいただいた順に掲載しております。

《寄付金》 山本キワ様・加藤よし様・大場文子様・NPO 法人たすけあいワーカーズさざんか様・匿名希望 1名

《物品等》 山寺幸子様・大熊明子様・佐藤京子様・川崎恵子様・守川清子様・匿名希望 2名

# ボランティア紹介

## 第40回 ALLIEVO Recorder Orchestra



＜素敵な音色を奏でるアッリエーヴォの皆さん＞

今回は、昨年4月からサンフレンズ善福寺の演奏会に来てくださっている「アッリエーヴォ リコーダー オーケストラ」の皆さんをご紹介します。「アッリエーヴォ リコーダー オーケストラ」は1996年、中学時代の吹奏楽部出身のメンバーを中心に、指導者である牧野光洋先生のもと創立されました。楽団名「アッリエーヴォ」は、イタリア語で「教え子」という意味です。

楽団のメンバーである元サンフレンズ善福寺看護職員の椎名則子さんの、「できるだけたくさんの人に、リコーダー（笛）の音色の素晴らしさを知ってもらえたら…」という思いがきっかけで、演奏会は始まりました。すでに今年度3回目の演奏会を迎えています。

演奏会での曲目は、毎回、牧野先生をはじめ楽団の皆さんが工夫を凝らして考えてくれます。ご入居者に馴染み深い曲から、映画音楽、歌謡曲、オリジナル曲まで幅広く、リコーダー用に牧野先生が曲をアレンジすることも度々あります。会場のリビングは、それはそれは心地よいリコーダーの音色で満たされます。ご入居者からは、「良い

音楽を聴かせてもらって嬉しいね。」「またぜひ来て欲しい！」と評判も上々です。

ひとくちにリコーダーと言っても、音色や音階が異なる色々な種類があることも、アッリエーヴォの皆さんの演奏を通じて教えてもらいました。

仕事や学業など忙しい合間を縫いながら、日々の練習を欠かさず行っているアッリエーヴォの皆さん。昨年12月には、第38回リコーダーコンテスト（2部門）に出場され、合奏部門で14年連続金賞受賞、重奏部門でも13年連続金賞を受賞するという見事な成績も残されています。「とにかくリコーダーを楽しもうという気持ちが、長続きの秘訣かも。」と椎名さんと言います。

今後は、さらに活動の幅を広げていきたいと話す皆さんの素晴らしい演奏を、これからも楽しみにしています。



＜曲目は何と200曲近くも持っています！＞

サンフレンズだより・ホームページへのご意見・ご感想をお寄せください

本部事務局 電話 : 03 ( 3394 ) 9833

FAX : 03 ( 3394 ) 9834

担当 : 中山・眞田・河野

ホームページアドレス

<http://www.3friends.or.jp>

E-mail アドレス

[kamiigusa@3friends.or.jp](mailto:kamiigusa@3friends.or.jp)